

# 平成26年度 N I E実践報告書

鹿児島県立財部高等学校  
寺川 徹

## 1年間の取り組み

年度当初の目標は以下のとおりである。

- ① 新聞を読むことで、文章の論点を正確に読み取る力をつけさせる。
- ② 新聞記事から、ものの見方や考え方を学び、自分の考えをまとめたり、他の人の考えを聞いたりして、幅広い視野を持たせる。

年度当初の活動計画は以下のとおりである。

- (ア) 毎日の朝読書のうち、火曜日と金曜日に新聞を題材にした共通課題を読み感想を書く。
- (イ) NIE 職員研修の実施。
- (ウ) 若い目への投稿、新聞感想文などのコンクールへの参加。
- (エ) 事前事後アンケートの実施と活用。
- (オ) 図書委員新聞の発行。
- (カ) 廊下・3年生の教室に掲示。
- (キ) 各教科やホームルーム、総合的な学習の時間で活用。 ※(イ)については実施できなかった。

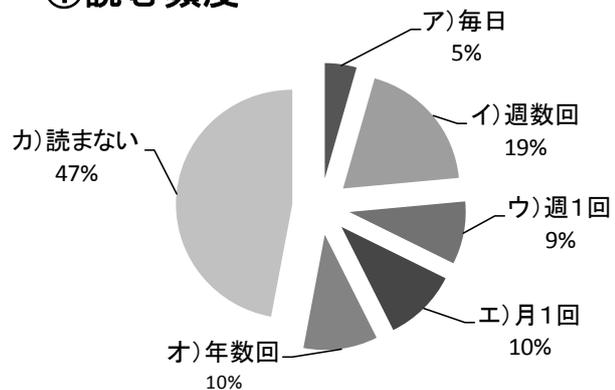
### 1. (エ)事前アンケートについて

5月の朝読書開始時に、以下の内容でアンケートを実施した。

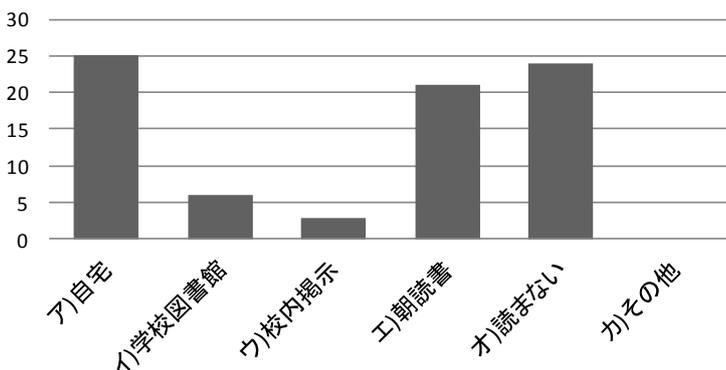
(内容)

- ① 新聞を読む回数（頻度）
- ② 新聞を読む場所
- ③ 新聞の中で読む欄・面
- ④ 文章を読むことは得意か

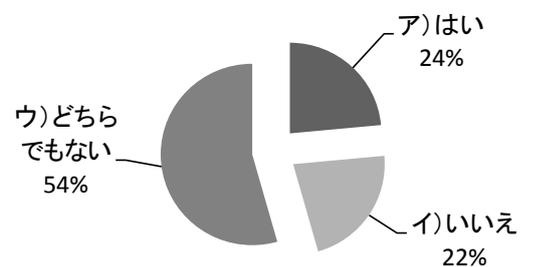
#### ①読む頻度

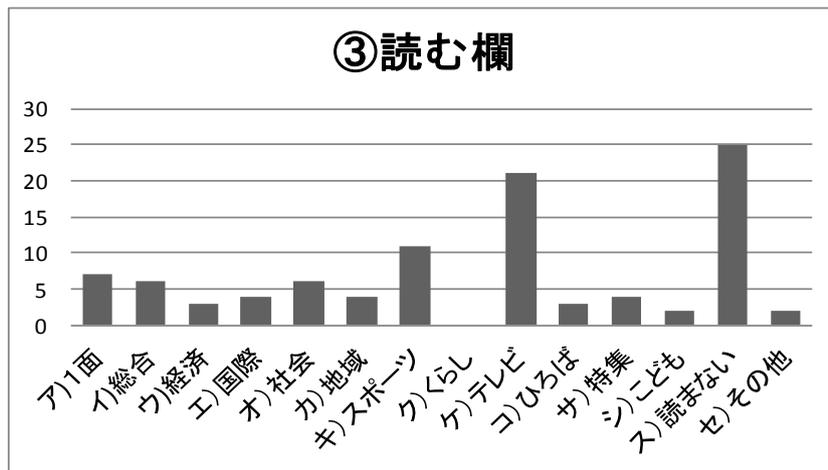


#### ②読む場所



#### ④文章を読むことが得意か





(考察)

- ① 「まったく読まない」生徒が半数おり、朝読書で新聞記事を読んでいるという印象を持っていないようである。
- ② 「自宅で読む」と答えた生徒が 25 名と予想よりも多い。「朝読書」の時間は、生徒が新聞に接する大きな機会となっている。図書館や掲示で新聞を読んでいる生徒が少ないため、掲示方法の検討や利用するきっかけづくりを考える。
- ③ 読む欄は「テレビ」「スポーツ」について興味が高いので、朝読書の題材にも取り入れる。
- ④ 文章を読むことについて、「どちらでもない」という回答が 54%と、苦手としている生徒が特に多いわけではなかった。朝読書の活動等を通じて、文章を読むことに慣れさせたい。

## 2. (ア)朝の読書の取り組み

(内容)

毎朝実施している「朝の読書」の時間のうち、火曜日と金曜日の週2回に新聞記事を利用した一斉読書教材を読み、感想を書く活動を取り入れている。

(実際)

- ① 図書委員（生徒）に複数の記事を読み比べさせ、記事を選択させた。
- ② 校内に感想を掲示するコーナーを設置した。また、町内の道の駅でも掲示し紹介した。
- ③ 毎回の感想から、各職員が交代で「きらり」と光る感想を「きらら賞」として選出し、全校を挙げてNIE活動に関わる雰囲気づくりを目指した。
- ④ 「きらら賞」に選ばれた感想を図書だよりに掲載し、選出理由も含めて紹介した。
- ⑤ 視野を広げられるよう様々な分野の記事を扱うが、生徒の興味が高い「スポーツ」関係の記事も取り入れた。内訳は以下の通りである。

(社会7・政治1・経済5・国際3・スポーツ3・地域5・テレビ1・こども2・くらし3・コラム5/回)

- ⑥ 感想だけでなく記事に対する提案や、企業の就職面接を想定した質問に対する答えを考えさせるといった形式の教材も取り入れ、実社会との関わりを感じられるよう配慮した。
- ⇒(例)「観光列車ななつ星」の記事に対して、「乗ってみたい列車のアイデア」を考える。  
「就職試験」の記事で、「自分（3年生）が工夫しているところ」を紹介する。

(課題)

新聞に接する大きな機会の一つとなっているので、今後も取組を続ける。プリントの形式については、提案・見出し付け・面接など、生徒の興味を持てる形式を取り入れるよう工夫する。

### 3. (オ)「財高新聞」について

(内容)

本校には、生徒の作成する学校新聞(学校だより)がなかったため、図書委員長の提案で毎学期発行することとなった。当初は、教員・生徒へのインタビューといった内容だったが、意識調査のように全生徒にアンケートを取り、集計結果を考察して掲載するなど、新聞の形式を参考に作成した。



現在作成中の3学期号では、本の紹介の記事を掲載する予定だが、複数紙の書評欄を比較して、わかりやすいレイアウトを検討している。

### 4. その他の活動について

#### ① (カ)校内での掲示について

廊下・玄関・3年教室に加えて、3年特別教室に数カ月分のバックナンバーを配置した。レポート学習を行ったり、就職・進学の試験の面接に備えて時事問題の確認を促したりして、配置されている新聞の活用を図った。

#### ② (キ)各教科での活用について

(国語科)

(事例) →

日数の経過した新聞記事を有効に活用できるように、「科学技術と倫理の問題」についての評論文の単元で、新聞を活用したレポート課題に取り組みさせた。

レポートの取組状況については、記事を要約することが難しかった生徒が多いようである。記事の構成や見出しに注目して、読解していくように事前指導を行うとより取り組みやすかったと思われる。

冬休み課題「生命倫理が変わる」新聞レポート (カ)組

新受精卵診断を承認  
全ての染色体異常を調査  
学会倫理委

「命の選別」との批判も

生命科学の分野だけでなく、社会システムや環境問題などでも、「人間の欲望」の課題と関わる記事が  
ありそうです。

・教科書本文で注目した文を抜き出す。

① 教科書「生命倫理が変わる」二六五 ページ 四 頁目

② 進んだ記事番号

③ 新聞記事本文の要約(自分の言葉)

④ 進んだ記事番号

西日本 新聞 年 月 日 付

※新聞記事(2)「新受精卵診断」の要約(自分の言葉)

体外受精させた受精卵の一部を採取して全ての染色体の異常を調べ、異常がない受精卵を正常な受精卵に戻す。重い遺伝病の子どもが生まれる可能性がある夫婦や、染色体の異常で流産を繰り返す患者に限って受精卵診断も認め、個別に審査していた。

③ 染色体を調べて異常があるかないか分かるのはいいけど、ただでも異常がないだけ選んで人工に返すのは命の選別をしているのではないかと感じました。でも、命を繰り返す女性や体外受精に失敗した女性にとっても、染色体診断はいいと思います。

④ 進んだ記事番号

発行期間：1月末まで

講座	担当教員	クラス・番号	氏名
政治経済	■		

① 次の文中のカタカナ部分を漢字で直しなさい。

1. 良い環境をキョウジュする権利。
2. 日本軍捕虜が、ソ連によって労働力として、長期にわたりヨクリウされた。
3. 組織的な犯罪を防ぐためのツウシンボウジョ法が制定された。
4. 住民基本台帳ネットワークは2003年にカドウした。

② 下の文章の( )に適する語句を漢字で書け。またあとの問いに答えよ。

1950年代後半からの( 1 )にもなって、公害が全国的に広がった。その中で、1960年代後半の( 2 )は、すべて原告の住民側が勝訴した。しかし、損害賠償という事後の救済では、失われた生命や健康を取り戻すことはできない。そこで、①より環境を守るための( 3 )が主張されるようになった。このような動きに対して、国も環境影響評価法を制定した。

日本国憲法は通信の秘密などを保障し、私生活の自由を保護してきた。しかし、現代では政府や企業が収集した個人情報、さまざまな形で転用される危険性がある。これを防ぐために( 4 )の権利が主張されるようになった。そして、この権利は、「自分に関する情報をみずから管理する権利」に発展した。

政治や行政の不正・腐敗、企業の活動による被害などが明らかになっていく中で、空国民の( 5 )の確立が主張された。この権利を保障するために、1999年に( 6 )が制定された。しかし、情報の公開には一定の制約がある。以上のような権利は②(ア)とよばれている。

- 問1 下線部①は憲法のどのような規定にもとづいて主張されているか。(漢字5文字)  
問2 下線部②に関して、右の記事を読んで、あなたの意見を書きなさい。



(公民科)

現代社会や政治・経済の授業で、「特定秘密保護法」「尊厳死」「裁判員制度」などの事項について、記事をもとにどのような事柄か、どのような問題点があるのかについて学習した。

← (事例)

### ③ (ウ)若い目への投稿について

3名の生徒が投稿し、2名が掲載された。希望者の投稿ポストも設置したが、講話や講演会などの学校行事の感想を元に投稿させた。来年度は、各クラス担任や行事担当者に協力を呼び掛け、生徒の感想文からの投稿を勧めたい。

### ④ 事後アンケートについて

2月に実施予定である。「読む頻度」の増減、「文章を読むことが得意(になったか)」等の点に注目し、次年度の活動の参考とする。

## 来年度に向けて

目標の①「読解力をつけさせる」については、各教科の授業や課題で、教科書の内容との関わりを意識させた上で、新聞を活用させることができた。そのため、生徒は新聞にただ漠然と目を通すのではなく、新聞を読み取ろうと意識しながら学習に臨んでいた。

②「幅広い視野を持たせる」については、朝読書では図書委員の生徒の記事選択を尊重しつつ、幅広い分野の記事を活用するように配慮できた。

朝読書・授業・課題等で幅広い分野の記事に触れ、自分の意見や感想を書かせることはできた。図書日よりや掲示板を通じて掲示をしているが、今後は、生徒が自分の感想について振り返ったり、他者(生徒同士)との意見交換・交流したりする活動を積極的に取り入れるよう、計画したい。

また、新聞の読み方の指導が必要だと感じたが、数年前に「読み方講座」を実施した際には、生徒の興味を喚起できず、取組が不十分なものになった。「新聞を読む(読み取る)」ことの重要性を実感させる方法について、よい取組を参考にしたい。